

単元デザインシート		学年 「単元名」	第5学年「単元量あたりの大きさ」(全4時間)
単元の目標			
【知識及び技能】	単元量あたりの大きさの意味及び表し方について理解し、それを求めることができる。		
【思考力、判断力、表現力等】	異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察している。		
【学びに向かう力、人間性等】	単元量あたりの大きさに進んで関わり、単元量あたりの大きさを用いて数量を比べることのよさに気づき、生活や学習に活用しようとする。		
単元を通して働かせたい見方・考え方		手立て	
<ul style="list-style-type: none"> ・物事を比べるには2つの数量が必要。1つの量だけでは比べられない。 ・比べるための2つの量に着目する。 ・図や数直線で考える。 ・1つの量を「1時間あたり」「1人あたり」などにそろえて考える。 ・「もし一方が同じ条件だったら」と考える。 		<ul style="list-style-type: none"> ・グループでめあてやまとめを話し合い、何について考えるのかを意識できるようにする。 ・児童が自分の考えをタブレット上で共有し、安心して質問したり交流したりできるようにする。 ・考えを説明したり比べたりする時間を設定し、よりよい方法に気付けるようにする。 ・大切な考え方をクラスログやマイログにまとめ、いつでも振り返ることができるようにする。 ・日常生活の中で、単元量あたりで示されているものを探し、学んだことを活用することを意識できるようにする。 	
時間	目指す児童の姿	働かせたい見方・考え方	
1	スナック菓子の重さと価格を用いて、どれがお得なのか、比べ方を考え、単元量あたりの考え方を理解している。	比べるために必要な二つの量の関係に着目する。重さ(g)か価格(円)のどちらか一方を揃えて考える。	
2	いろいろな単元量あたりの大きさを求めることで、目的に応じた大きさの比べ方や表し方を考えている。	問題場面から何を1あたりにするかを考える。数直線図で大きさの関係を捉える。	
3	人口の混み具合を、単元量あたりの大きさを用いて比べたり、表したりすることができる。	2つの量の関係に着目して考える。	
4	目的に応じて単元量あたりの大きさを求めたり、比べ方を説明したりする。	学習したことを活用して考える。	
5			
6			
7			

8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		